

2025（令和7）年度 環境衛生科学特論 時間割表

1・2・3・4年次 前期

授業回数	開講日	曜日	時限	担当教員	授業科目
1	令和7年4月12日	土	3	井藤 千裕 教授	環境衛生科学特論
2			4	井藤 千裕 教授	
3	令和7年4月19日	土	3	井藤 千裕 教授	
4			4	小森 由美子 教授	
5	令和7年4月26日	土	3	水野 初 教授	
6			4	小森 由美子 教授	
7	令和7年5月10日	土	3	水野 初 教授	
8			4	水野 初 教授	
9	令和7年5月17日	土	3	打矢 恵一 教授	
10			4	打矢 恵一 教授	
11	令和7年5月24日	土	3	打矢 恵一 教授	
12			4	打矢 恵一 教授	
13	令和7年5月31日	土	3	神野 透人 教授	
14			4	神野 透人 教授	
15	令和7年6月7日	土	3	神野 透人 教授	
16			4	神野 透人 教授	
17	令和7年6月14日	土	3	輪島 丈明 准教授	
18			4	輪島 丈明 准教授	
19	令和7年6月21日	土	3	杉山 栄二 准教授	
20			4	杉山 栄二 准教授	
21	令和7年6月28日	土	3	高谷 芳明 准教授	
22			4	高谷 芳明 准教授	
23	令和7年7月5日	土	1	小森 由美子 教授	
24			2	小森 由美子 教授	
25	令和7年7月12日	土	3	岡本 誉士典 准教授	
26			4	岡本 誉士典 准教授	
27	令和7年7月19日	土	3	杉本 直樹 特任教授	
28			4	杉本 直樹 特任教授	
29	令和7年7月26日	土	3	堤 智昭 特任教授	
30			4	堤 智昭 特任教授	
備考	講義室：八事新1号館3階306大学院演習室 講義時間帯：1時限 9：10～10：40 2時限 10：50～12：20 3時限 13：10～14：40 4時限 14：50～16：20 ※土曜日に特論講義を履修しない場合は特殊研究を履修すること。 ※履修登録後、履修希望者が無い授業科目は閉講とします。 ※オレンジ色のコマは名古屋大学の学生は受講不可。				

令和7年3月5日現在

時間割番号	761001
科目名	環境衛生科学特論
科目名（英字）	Advanced Environmental Hygiene Science
担当者氏名	小森 由美子,井藤 千裕,打矢 恵一,神野 透人,水野 初,岡本 誉士典,杉山 栄二,高谷 芳明,輪島 丈明,杉本 直樹,堤 智昭
対象研究科・専攻	薬学研究科薬学専攻博士課程（4年制）
講義学期	前期
単位数	4

準備学習・事後学習	各授業において、講義後には講義で学んだことを踏まえてレポートを作成し、提出すること。																				
授業の概要と目的	死因第一位のがんの原因として食物など化学物質一般や微生物などの生物的要因が指摘されているように、本特論では環境から摂取する化学物質や環境因子である病原微生物について、それらが内分泌系および神経系、免疫系、幹細胞系などに及ぼす影響という側面から解析して疾病に至るプロセスを化学的・総合的に把握する最先端理論を紹介しながら講義する。																				
該当するCP（カリキュラム・ポリシー）およびDP（ディプロマ・ポリシー）	本授業は、CP①③④およびDP①に該当する。																				
科目ナンバリングコード	特になし																				
到達目標	ホメオスタシスのゆらぎを破綻に導く諸要因およびそれを是正する天然物・食品成分等に関して収集した論文情報を科学的かつ論理的に評価できる能力を習得する。																				
	<table><tr><th>番号</th><th>【項目欄】</th><th>【内容欄】</th></tr><tr><td>1.</td><td>担当：井藤</td><td>自然環境からのシーズ分子の探索研究</td></tr><tr><td>2.</td><td>担当：井藤</td><td>天然有機化合物の構造研究の実際(1)</td></tr><tr><td>3.</td><td>担当：井藤</td><td>天然有機化合物の構造研究の実際(2)</td></tr><tr><td>4.</td><td>担当：小森</td><td>ワクチンに関する諸問題(1) 現在使用されているワクチンと各国の予防接種制度、ワクチン忌避の問題</td></tr><tr><td>5.</td><td>担当：水野</td><td>生体試料分析法（クロマトグラフィー）</td></tr></table>			番号	【項目欄】	【内容欄】	1.	担当：井藤	自然環境からのシーズ分子の探索研究	2.	担当：井藤	天然有機化合物の構造研究の実際(1)	3.	担当：井藤	天然有機化合物の構造研究の実際(2)	4.	担当：小森	ワクチンに関する諸問題(1) 現在使用されているワクチンと各国の予防接種制度、ワクチン忌避の問題	5.	担当：水野	生体試料分析法（クロマトグラフィー）
	番号	【項目欄】	【内容欄】																		
	1.	担当：井藤	自然環境からのシーズ分子の探索研究																		
	2.	担当：井藤	天然有機化合物の構造研究の実際(1)																		
	3.	担当：井藤	天然有機化合物の構造研究の実際(2)																		
	4.	担当：小森	ワクチンに関する諸問題(1) 現在使用されているワクチンと各国の予防接種制度、ワクチン忌避の問題																		
5.	担当：水野	生体試料分析法（クロマトグラフィー）																			

	6.	担当：小森	ワクチンに関する諸問題(2) 新しいワクチンの開発
	7.	担当：水野	生体試料分析法（質量分析（LC-MS））
	8.	担当：水野	生体試料分析法（メタボロミクス）
	9.	担当：打矢	外敵（病原微生物、がん、ストレス等）から身を守る生体防御（免疫）システム
	10.	担当：打矢	病原微生物（非結核性抗酸菌や結核菌）の感染メカニズム（Ⅰ）
	11.	担当：打矢	病原微生物（サルモネラ菌）の感染メカニズム（Ⅱ）
	12.	担当：打矢	病原微生物（インフルエンザウイルスやSRAS-Cov2）の感染メカニズム（Ⅲ）
	13.	担当：神野	侵害刺激受容体を活性化する環境化学物質
	14.	担当：神野	環境化学物質による侵害刺激受容体活性化の種差

授業計画	15.	担当：神野	室内空気中の揮発性有機化合物
	16.	担当：神野	室内環境と健康
	17.	担当：輪島	薬剤耐性菌（AMR）の出現メカニズムと耐性化メカニズム
	18.	担当：輪島	感染症の検査・診断に用いられる最新技術
	19.	担当：杉山	生体試料分析法（空間オミクス）
	20.	担当：杉山	生体試料分析法（イオン移動度質量分析）
	21.	担当：高谷	天然資源に含まれる有機化合物の分離
	22.	担当：高谷	海外の遺伝資源へのアクセス 生物多様性条約、名古屋議定書について
	23.	担当：小森	感染症関連の法律

	24.	担当：小森	薬剤耐性菌のまん延に関する疫学的状況、世界・日本の耐性菌対策の動向																										
	25.	担当：岡本誉士典	わが国のがんの現状（1）：がんの統計学																										
	26.	担当：岡本誉士典	わが国のがんの現状（2）：各種発がん要因とそのメカニズム、発がん予防																										
	27.	担当：杉本	食品添加物のレギュラトリーサイエンスⅠ																										
	28.	担当：杉本	食品添加物のレギュラトリーサイエンスⅡ																										
	29.	担当：堤	食品安全のレギュラトリーサイエンスⅠ																										
	30.	担当：堤	食品安全のレギュラトリーサイエンスⅡ																										
授業方法の形式	講義を中心に、レポート、発表、討論など多様な形態、方法も取り入れて理解を深める。																												
授業の実施方法	対面授業																												
成績評価方法	講義に対する理解を計るために、レポート内容（60%）や課題に対するプレゼンテーション（20%）、質疑応答（20%）などの各局面で、大学院生としての資質、能力の成長、レベルを評価する。C(合格)となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。																												
成績評価基準	C（合格）となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。																												
その他（履修条件・関連科目など）	特に限定しないが、広い視野で関連分野領域を含めて理解を深めてほしい。																												
テキスト	<table><tr><td>番号</td><td>【書籍名】</td><td>【著者】</td><td>【出版社】</td></tr><tr><td>1.</td><td>講義の場で紹介</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2.</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3.</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>4.</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>5.</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					番号	【書籍名】	【著者】	【出版社】	1.	講義の場で紹介			2.				3.				4.				5.			
番号	【書籍名】	【著者】	【出版社】																										
1.	講義の場で紹介																												
2.																													
3.																													
4.																													
5.																													

参考資料文献等	番号	【書籍名】	【著者】	【出版社】
	1.	講義の場で紹介		
	2.			
	3.			
	4.			
	5.			
参考URL	番号	【表示名】	【URL】	【説明】
	1.	講義の場で紹介		
	2.			
	3.			
更新日時	2025/02/14 09:25:39			

2025（令和7）年度 病態解析科学特論 時間割表

1・2・3・4年次 前期

授業回数	開講日	曜日	時限	担当教員	授業科目
1	令和7年4月12日	土	1	水本 秀二 准教授	病態解析科学特論
2			2	水本 秀二 准教授	
3	令和7年4月19日	土	1	水本 秀二 准教授	
4			2	水本 秀二 准教授	
5	令和7年4月26日	土	1	山田 修平 教授	
6			2	山田 修平 教授	
7	令和7年5月10日	土	1	山田 修平 教授	
8			2	山田 修平 教授	
9	令和7年5月17日	土	1	根岸 隆之 教授	
10			2	根岸 隆之 教授	
11	令和7年5月24日	土	1	根岸 隆之 教授	
12			2	根岸 隆之 教授	
13	令和7年5月31日	土	1	小田 彰史 教授	
14			2	小田 彰史 教授	
15	令和7年6月7日	土	1	早川 伸樹 教授	
16			2	早川 伸樹 教授	
17	令和7年6月14日	土	1	早川 伸樹 教授	
18			2	早川 伸樹 教授	
19	令和7年6月21日	土	1	小田 彰史 教授	
20			2	小田 彰史 教授	
21	令和7年6月28日	土	1	森 和俊 特任教授	
22			2	森 和俊 特任教授	
23	令和7年7月5日	土	3	森 和俊 特任教授	
24	令和7年7月12日	土	1	橋本 和宜 准教授	
25			2	橋本 和宜 准教授	
26	令和7年7月19日	土	1	村田 富保 教授	
27			2	村田 富保 教授	
28	令和7年7月26日	土	1	村田 富保 教授	
29			2	村田 富保 教授	
30	令和7年8月2日	土	1	橋本 和宜 准教授	
備考	講義室：八事新1号館3階306大学院演習室 講義時間帯：1時限 9：10～10：40 2時限 10：50～12：20 3時限 13：10～14：40 4時限 14：50～16：20 ※土曜日に特論講義を履修しない場合は特殊研究を履修すること。 ※履修登録後、履修希望者が無い授業科目は閉講とします。 ※オレンジ色のコマは名古屋大学の学生は受講不可。				

令和7年3月5日現在

時間割番号	761201
科目名	病態解析科学特論
科目名（英字）	Advanced Molecular and Cellular Pathogenesis Science
担当者氏名	山田 修平,小田 彰史,早川 伸樹,村田 富保,根岸 隆之,橋本 和宜,水本 秀二,森 和俊
対象研究科・専攻	薬学研究科薬学専攻博士課程（4年制）
講義学期	前期
単位数	4

準備学習・事後学習	学部（または大学院修士課程）における機能形態学、解剖生理学、生化学、分子生物学、構造生物学等の基礎知識を1時間程度でまとめておくこと。講義後には2時間程度復習課題に取り組むこと。																				
授業の概要と目的	近年の分子細胞生物学と構造生物学の進展により、各種疾患の分子病態が解明されてきた。治療薬の作用機構を理解する上でも分子病態の知識が必須である。本授業では、最新の研究成果を理解するために必要な分子細胞生物学的ならびに構造生物学的手法の理解を通して、主な疾患について最新の分子病態に関する知見を身につけることを目的とする。																				
該当するCP（カリキュラム・ポリシー）およびDP（ディプロマ・ポリシー）	本授業は、CP①③④およびDP①に該当する。																				
科目ナンバリングコード	特になし																				
到達目標	分子細胞生物学および構造生物学に関する理解を強化する。																				
	<table><tr><th>番号</th><th>【項目欄】</th><th>【内容欄】</th></tr><tr><td>1.</td><td>糖鎖関連疾患 1 担当：水本</td><td>糖鎖欠損による遺伝性の骨系統疾患</td></tr><tr><td>2.</td><td>糖鎖関連疾患 2 担当：水本</td><td>糖鎖欠損による遺伝性の免疫・心・皮膚・結合組織疾患</td></tr><tr><td>3.</td><td>糖鎖関連疾患 3 担当：水本</td><td>細胞内骨格タンパク質の調節因子の変異による遺伝性疾患</td></tr><tr><td>4.</td><td>糖鎖関連疾患 4 担当：水本</td><td>糖鎖欠損による遺伝性疾患のモデル生物</td></tr><tr><td>5.</td><td>複合糖質関連疾患 1 担当：山田</td><td>複合糖質およびそれに関連する疾患についての基礎</td></tr></table>			番号	【項目欄】	【内容欄】	1.	糖鎖関連疾患 1 担当：水本	糖鎖欠損による遺伝性の骨系統疾患	2.	糖鎖関連疾患 2 担当：水本	糖鎖欠損による遺伝性の免疫・心・皮膚・結合組織疾患	3.	糖鎖関連疾患 3 担当：水本	細胞内骨格タンパク質の調節因子の変異による遺伝性疾患	4.	糖鎖関連疾患 4 担当：水本	糖鎖欠損による遺伝性疾患のモデル生物	5.	複合糖質関連疾患 1 担当：山田	複合糖質およびそれに関連する疾患についての基礎
	番号	【項目欄】	【内容欄】																		
	1.	糖鎖関連疾患 1 担当：水本	糖鎖欠損による遺伝性の骨系統疾患																		
	2.	糖鎖関連疾患 2 担当：水本	糖鎖欠損による遺伝性の免疫・心・皮膚・結合組織疾患																		
	3.	糖鎖関連疾患 3 担当：水本	細胞内骨格タンパク質の調節因子の変異による遺伝性疾患																		
	4.	糖鎖関連疾患 4 担当：水本	糖鎖欠損による遺伝性疾患のモデル生物																		
5.	複合糖質関連疾患 1 担当：山田	複合糖質およびそれに関連する疾患についての基礎																			

	6.	複合糖質関連疾患 2 担当：山田	複合糖質およびそれに関連する疾患について解析するための、分子生物学的および生化学的手法
	7.	複合糖質関連疾患 3 担当：山田	複合糖質に関連する疾患についての論文紹介および討論 1
	8.	複合糖質関連疾患 4 担当：山田	複合糖質に関連する疾患についての論文紹介および討論 2
	9.	神経系疾患 1 担当：根岸	脳の構造と機能、その発達の概観
	10.	神経系疾患 2 担当：根岸	代表的な神経系疾患（精神疾患・神経変性疾患）
	11.	神経系疾患 3 担当：根岸	神経系疾患のモデル動物：病態を評価する方法とそれを理解するための基礎統計学（1）
	12.	神経系疾患 4 担当：根岸	神経系疾患のモデル動物：病態を評価する方法とそれを理解するための基礎統計学（2）
	13.	in silico創薬 1 担当：小田	分子病態を疾病治療につなげるためのin silico創薬の概説
	14.	in silico創薬 2 担当：小田	Structure-based drug designとligand-based drug design

授業計画	15.	糖尿病 1 担当：早川	糖尿病の分子病態と最新の薬物療法	
	16.	糖尿病 2 担当：早川	糖尿病に関する文献紹介および討論	
	17.	内分泌疾患 1 担当：早川	甲状腺疾患の分子病態とそれに基づく治療戦略	
	18.	内分泌疾患 2 担当：早川	副腎疾患の分子病態とそれに基づく治療戦略	
	19.	in silico創薬 3 担当：小田	実際のin silico創薬	
	20.	in silico創薬 4 担当：小田	in silico創薬に関する論文紹介	
	21.	小胞体ストレス応答関連疾患 1 担当：森	小胞体ストレス応答の基礎	
	22.	小胞体ストレス応答関連疾患 2 担当：森	小胞体ストレス応答に関連する疾患	
	23.	酸化ストレス制御と疾患1 担当：橋本	酸化ストレス制御と疾患1	

	24.	酸化ストレス制御と疾患2 担当：橋本	酸化ストレス制御と疾患2																								
	25.	酸化ストレス制御と疾患3 担当：橋本	酸化ストレス制御に関連する疾患についての論文紹介および討論 1																								
	26.	酸化ストレス制御と疾患4 担当：橋本	酸化ストレス制御に関連する疾患についての論文紹介および討論2																								
	27.	エピジェネティックな遺伝子発現と疾患1 担当：村田	エピジェネティックな遺伝子発現と疾患1																								
	28.	エピジェネティックな遺伝子発現と疾患2 担当：村田	エピジェネティックな遺伝子発現と疾患2																								
	29.	エピジェネティックな遺伝子発現と疾患3 担当：村田	エピジェネティックな遺伝子発現に関連する疾患についての論文紹介および討論 1																								
	30.	エピジェネティックな遺伝子発現と疾患4 担当：村田	エピジェネティックな遺伝子発現に関連する疾患についての論文紹介および討論2																								
授業方法の形式	各分野に高い専門性を有する複数の教員によるオムニバス形式の講義を中心に、最新の知見について学ぶ。																										
授業の実施方法	対面授業																										
成績評価方法	全講義数の 2 / 3 以上の出席者を評価対象とする。論文紹介の内容と討議および受講態度（60%）ならびに提出物（40%）などから総合的に評価する。																										
成績評価基準	C(合格)となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。																										
その他（履修条件・関連科目など）	特になし。																										
テキスト	<table><tr><td>番号</td><td>【書籍名】</td><td>【著者】</td><td>【出版社】</td></tr><tr><td>1.</td><td>授業プリント</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2.</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3.</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>4.</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>5.</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	【書籍名】	【著者】	【出版社】	1.	授業プリント			2.				3.				4.				5.			
番号	【書籍名】	【著者】	【出版社】																								
1.	授業プリント																										
2.																											
3.																											
4.																											
5.																											

参考資料文献等	番号	【書籍名】	【著者】	【出版社】
	1.	最新医学		最新医学社
	2.	実験医学		羊土社
	3.			
	4.			
	5.			
参考URL	番号	【表示名】	【URL】	【説明】
	1.			
	2.			
	3.			
更新日時	2024/12/21 11:41:16			